



兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会 in宮城

8月1日(土)・2日(日)、標記大会を仙台市の「ホテル白萩」において、「今般の大震災の復興に、兵庫教育大学大学院で培った力を役立てよう」をテーマに開催しました。この大会は昭和57年2月の初回大会以来、毎年各地区支部の持ち回りで開催しているもので、今回は宮城県支部を中心に北海道・東北ブロックが力を結集し第35回目を数えました。宮城県・仙台市各教育委員会の後援事業として来賓のご臨席を得、北は秋田県から南は沖縄県まで18都府県の修生・在学生と大学関係者など、合わせて85人の参加がありました。遠藤茂大会実行委員長を中心にブロックの各支部から集われた委員の皆さま方が、細かい配慮の行き届いた心温まる大会を創りあげてくださいました。ありがとうございました。



8月1日の同窓会総会は、大橋博会長の開会挨拶から始まり、議案として平成26年度の事業報告や会計決算報告、役員改選による川村庸子新会長の就任、平成27年度の事業計画や会計予算案等について審議が行われ、原案どおり了承されました。



研究大会は、始めに加治佐学長により、『最近の教育改革について』と題して、最近の急激な教育改革の動向と、その中で教師教育のトップランナーとしての兵庫教育大学の重点的取組について講演が行われました。続いて、『心のケア推進班における支援者支援事業に携わって』と題して、松村環氏(学校心理・発達健康教育コース33期)が、『東日本大震災における教育領域の取組～こころのサポート授業と支援体制づくり～』と題して、大谷哲弘氏(臨床心理学コース28期)が、被災地における子どもの現状と課題について、心のケアの視点から実践研究発表を行いました。震災から5年



目に入り日常が戻りつつある学校生活の中で、子どもの心を見取る力や校内外の連携や対応のあり方についての示唆に富む内容でした。



語り口とユーモアたっぷりのお話しに、参加者は熱心に聞き入り深い感銘を与えられました。

続いて、『海をうらまず～大震災を越えて～』と題して、NPO法人森は海の恋人理事長の畠山重篤氏による講演が行われました。講演では、森が作り出す鉄分が如何に海の豊富な生命を支えているかということ、漁師としてのご自身の体験と科学的知見に基づき分かりやすくお話しいただきました。多くのエピソードを織り交ぜながら、飾らない



研究大会の恒例となった「教育実践研究活動等に係る表彰」が行われました。大学院を修了後、優れた教育実践研究活動等を行い大学及び大学院同窓会の名誉を高めその発展に寄与された5人の同窓会員の方々に加治佐学長及び川村会長から嬉野賞等の賞状並びに記念品が授与されました。

嬉野賞 3名：坂口 豊（大阪府、言語系1期）
 花井 正樹（愛知県、生徒指導4期）
 平松 清志（岡山県、生徒指導5期、
 連合大学院後期博士課程修了）
 奨励賞 2名：酒井 達哉（兵庫県、言語系30期）
 真鍋 博（愛媛県、教育基礎2期）



研究大会の最後に参加者全員で記念の集合写真を撮りました。

平成28年度は、大阪府支部を中心に奈良県支部・和歌山県支部が力を合わせ、大阪市で8月6日（土）・7日（日）に開催することの予告と参加の誘いが吉原照昌ブロック長から行われました。全国各地から集まり、今大会が成功裏に終わったことを祝し、また来年度大阪での再会を約束しました。



情報交換会では、東北各県から持ち寄られた銘酒に舌鼓を打ちながら、懐かしい学生生活を語り合い、旧交を温め合う姿があちらこちらで見受けられました。

2日目は巡検が行われ、震災遺構候補施設の仙台市立荒浜小学校とその周辺、日本三景松島瑞巖寺などを巡りました。名所旧跡の見学とともに、今なお残る大震災の爪痕を目の当たりにし、また当時

荒浜小学校長として陣頭指揮に当たられた川村孝男校長先生の現地での説明に、大震災を肌で感じる貴重な体験となりました。

